

KA-1000

取扱説明書

TRIO

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

お買いあげいただきましてありがとうございました。本機は日本国内専用のモデルですので、外国で使用することはできません。

アフターサービスについて

- 1.保証書：この商品の保証書は別途添付しております。必ず所定事項の記入及び記載内容をご確認いただき大切に保存してください。
 - 2.保証期間：お買上げの日より**1年間**です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合には、保証書の記載内容によりお買上げの販売店またはトリオの営業所が無料修理致します。
 - 3.保証期間経過後の修理については、お買上げの販売店またはトリオの営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により**有料修理**致します。
 - 4.本機の**補修用性能部品の最低保有期間**は、製造打切後**8年間**です。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
 - 5.なお、アフターサービスについてご不明な点は、お買上げの販売店、またはトリオの営業所に、ご遠慮なくご相談ください。
- ※ダンボール箱は、アフターサービスや引越しの際、大切な機器を保護するために是非保管し、ご利用ください。

付属品について

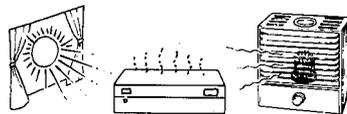
- Σケーブル(3m)……………2本
- すべり防止用ゴム……………4個

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を締めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快よい生活環境を守りましょう。

設置上のご注意

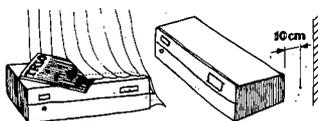
直射日光の当る所、暖房器具など発熱物の近くはさけてください。



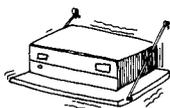
花瓶、化粧品など水の入ったものは、セットの上に置かないでください。また、湿気の多い所はさけてください。



放熱をよくするため、ケース上面の放熱孔をレコード盤やテーブルクロスなどでふさがないようにください。また、壁から10cmくらい離してください。

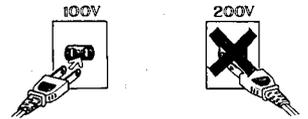


不安定な棚などはさけ、ホコリ、振動の少ない水平な場所にセッティングしてください。



安全にお使いいただくために

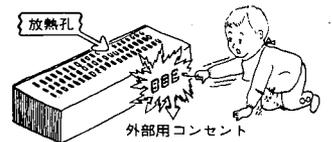
本機は、交流100V専用です。クーラーなど単相200Vでは使えません。



ケースなどをはずし、内部にふれることはさけてください。内部に手を入れると感電、故障の原因となることがあります。



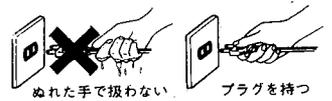
背面の電源コンセントにヘアピン、縫い針などの金属物が入ると故障や感電の原因になります。とくばお子様へのご注意をお願いします。



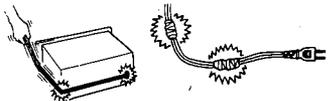
背面パネルの電源コンセントは容量より多い機器を接続しないでください。アイロン、トースターなどは絶対に接続しないでください。



電源プラグの抜き差しは、ぬれた手で行ないますと感電するおそれがありますのでご注意ください。抜くときは、プラグを持ってください。

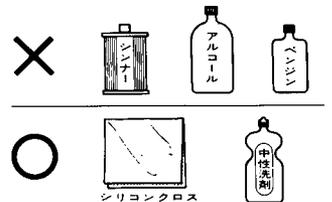


電源コードを強くひっぱったり、無理に折りまげたり、継ぎ足したりすることは、通電しなくなったり、ショートのおそれがありますのでやめましょう。



セットのお手入れ

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、シリコンクロスかやわらかい布でからぶきします。シンナー、ベンジンなどの使用は変色の原因になることがあります。



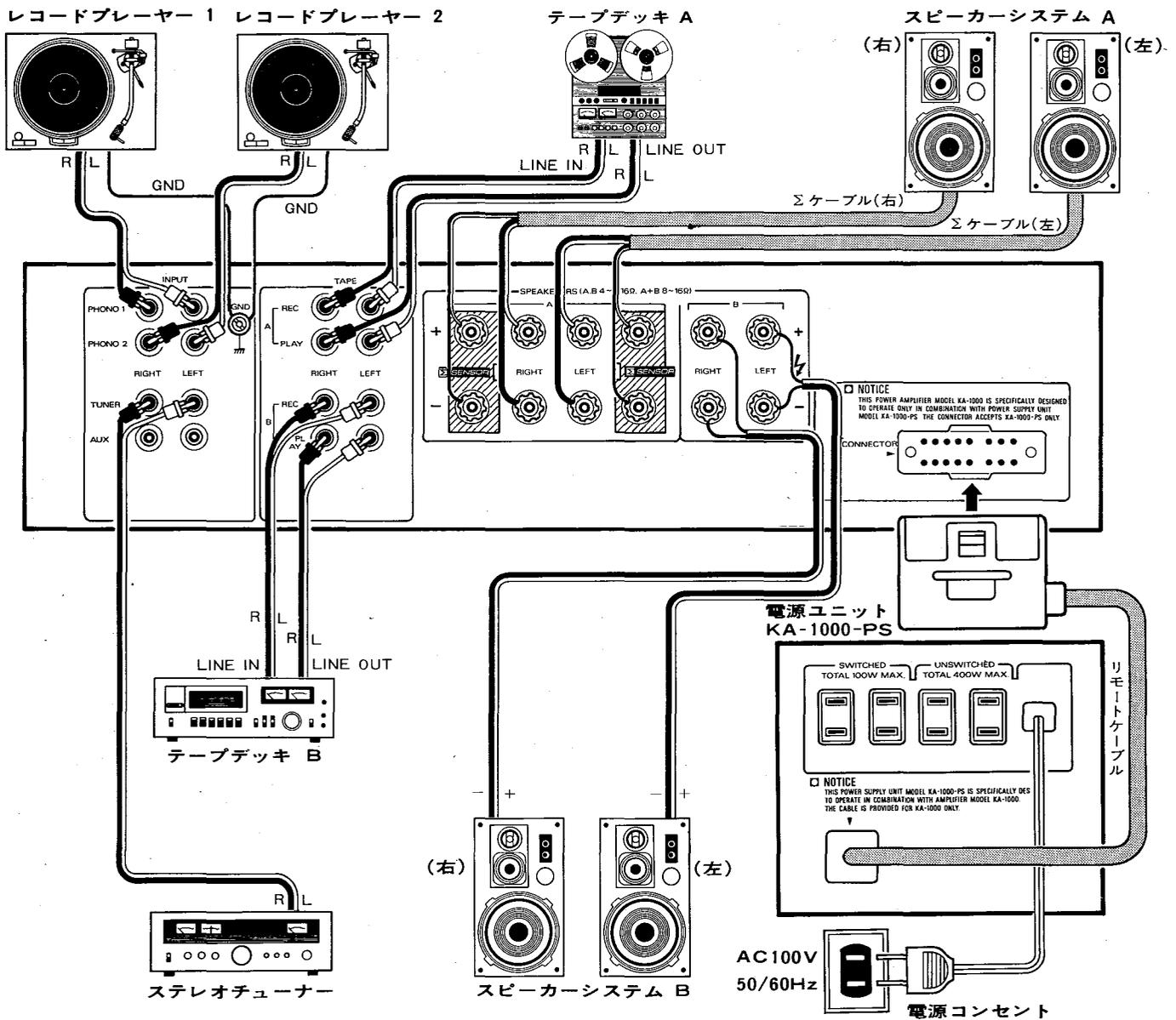
異常にお気づきのさいは

煙がでてい、変な匂いがするなどのときは、電源スイッチをすばやくOFFにして電源コードを抜いてください。そのうえで速かに購入店または最寄りのトリオサービスセンター、営業所へご連絡ください。

本機の発熱量について

本機は、高性能確保のため、大電流回路が多く、一般のプリメインアンプに比べて発熱量が大きく、温度上昇がかなりありますが、これは異常ではありません。十分、設計上対応してありますので耐久性などでも心配はありません。

接続のしかた



スピーカーシステムの接続

スピーカー端子は、A、B 2 組あります。スピーカーシステムを1組だけ接続するときは、A 端子をご使用ください。本機付属のΣケーブルを接続することにより、Σドライブシステムによって、優れた音質で音楽を楽しむことができます。A 端子には、もちろん、通常のスピーカーコードも接続できます。B 端子は、2 組目のスピーカーシステムを使用するときに接続します。

スピーカーのインピーダンスについて

A または B のいずれか一方に接続するときは、4 ~ 16 Ω をご使用ください。

A、B 2 組のスピーカーシステムを接続して、同時に駆動するときは、おのおののスピーカーのインピーダンスは、8 Ω ~ 16 Ω を接続します。もし、1 本でも 8 Ω 以下のものをつなぎますと、アンプの故障の原因となることがあります。

注

スピーカーコードを接続する場合は、電源スイッチを OFF にして行ってください。

Σケーブルの接続 (Σドライブシステム)

本機付属のΣケーブル内部には、赤色 2 本、黒色 2 本、計 4 本のコードが入っています。それぞれのコードを下記の手順で接続します。

1. 左側スピーカーへのケーブルは、本機 A 端子の LEFT (左) に、右側スピーカーへのケーブルは、RIGHT (右) に接続します。
2. ケーブルの片端は、赤色 2 本と黒色 2 本のコードがそれぞれ結ばれ、ハンダ上げされています。このうち赤色のコードをスピーカーの (+) 端子に、黒色のコードを (-) 端子に接続します。
3. ケーブルの反対側の末端は、4 本単独でハンダ上げされています。このうち赤色の太い方のコードを本機の A 端子の (+) へ、黒色の太い方のコードを (-) へ接続します。次に、赤色の細い方のコードを本機 A 端子の斜線で囲まれている Σセンサー用端子の (+) へ、黒色の細い方のコードを (-) へ接続します。
4. 以上左側、右側のスピーカーとも同じ要領で接続します (図 1 参照)。(+) と (-) の各端子へ接続したコードは、絶対にショートさせないようにご注意ください。

注

1. 本機の B 端子は、通常のスピーカーコード専用端子です。Σケーブルを接続することはできません。
2. 付属のΣケーブルが短くて使えない場合は、市販の 2 並行コード 4 本か、4 並行コード 2 本、またはΣケーブルの類似品で代用することができます (図 2 参照)。その場合の結線方法は図 1 と同じですが、極性 (+・-) および各端子への接続は、十分ご注意ください。なお、スピーカーコードは、できるだけ短くしてご使用ください。

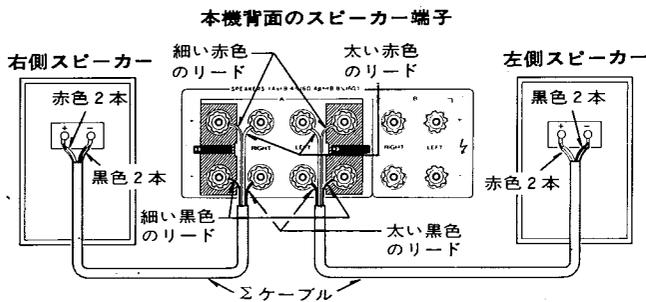


図1 Σケーブルの接続

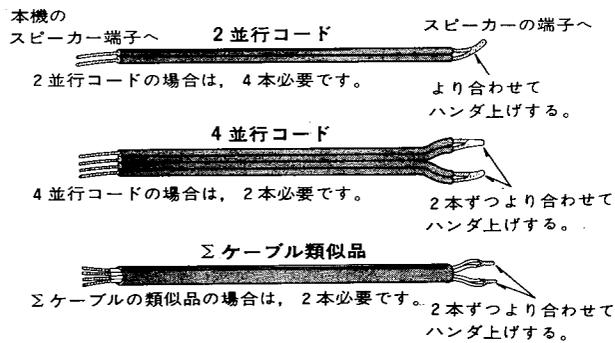


図2 Σケーブルの代用品の例

通常のスピーカーコードの接続 (Σケーブルを使用しない場合)

1. 左側スピーカーへのコードは、本機スピーカー端子のLEFT(左)に、右側スピーカーへのコードはRIGHT(右)に接続します。
2. スピーカーコードの芯線が他の端子にふれないように図3の順序で接続してください。
3. スピーカー端子の極性(+・-)とスピーカーの極性は、必ず(+)と(+), (-)と(-)を合わせて接続します。(+)と(-)は絶対にショートさせないようにご注意ください。

左、右を反対に接続したり、極性をまちがえて接続しますと楽器などの位置がはっきりせず、不自然な再生音となります。

注

通常のスピーカーコードでA端子に接続する場合は、斜線で囲まれている端子にはなにも接続しないでください。

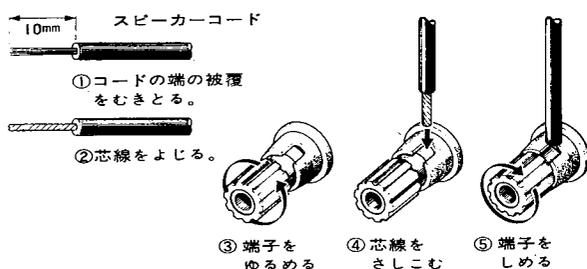


図3 通常のスピーカーコードの接続

レコードプレーヤーの接続

本機には、2組のPHONO端子があります。PHONO 1, 2いずれの端子でもMM型, MC型のカートリッジ付プレーヤーが接続できます。

プレーヤーの出力コードとPHONO端子のLEFT, RIGHTをよく確かめて接続してください。アース線は、GND端子に接続します。

チューナーの接続

チューナーのOUTPUT端子と本機のTUNER端子を両ピンコードで、LEFT, RIGHTよく確かめて、同じチャンネルどうしをつなぎます。

チューナーの電源プラグは、本機のSWITCHEDコンセントに差込むと便利です。

予備入力端子 (AUX) の接続

2台目のチューナーを使つての比較試聴、再生だけに用いるテープデッキ、テレビチューナーなどが接続できます。

アース (GND) 端子の接続

プレーヤー、テープデッキなどを接続したときのアース用としてご使用ください。

テープデッキの接続

A, B 2系統のテープ端子を備えています。1台のテープデッキを接続するときはAかBいずれか一方の端子に接続します。2台のテープデッキに同時録音するときは、A, B 両端子へ接続してください。

録音するとき: REC端子とテープデッキの録音入力端子 (LINE IN) を録音用コードでLEFT, RIGHT正しく接続します。

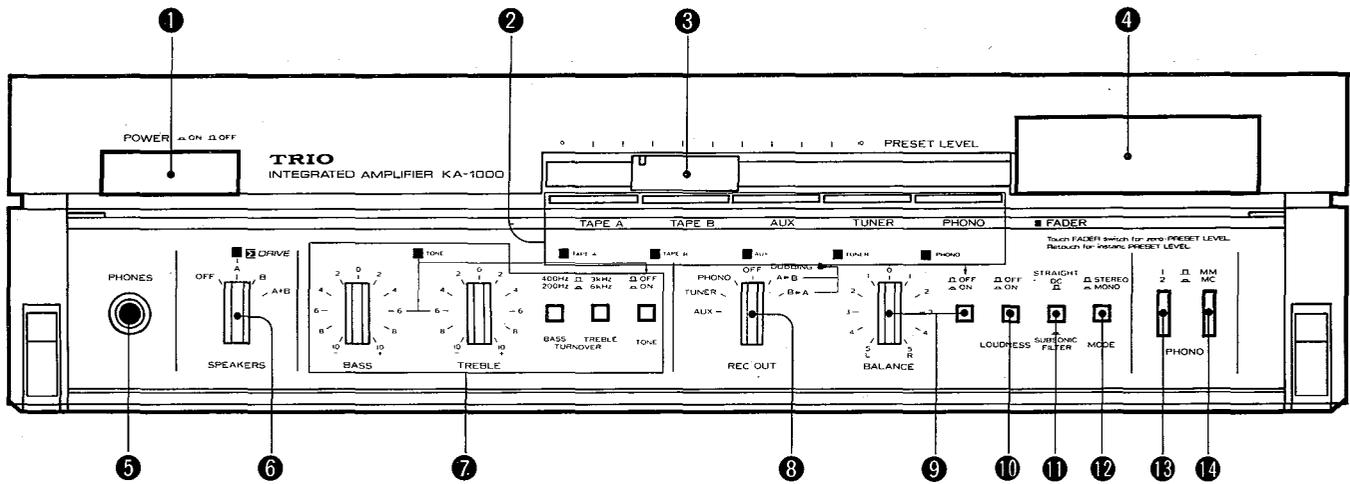
再生するとき: PLAY端子とテープデッキの再生出力端子 (LINE OUT) を再生用コードでLEFT, RIGHT正しく接続します。

外部用電源コンセント (電源ユニットKA-1000-PSの背面)

SWITCHED (2個で容量100Wまで): チューナー、テープデッキ、プレーヤーなどの電源プラグを差込むことができます。それらの機器の電源スイッチをONにしておけば、本機の電源スイッチと連動しON-OFFしますので、便利です。

UNSWITCHED (2個で容量400Wまで): 本機の電源スイッチと連動させる必要のないオーディオ機器の電源プラグを差込みます。400W以上の機器は絶対に接続しないでください。

各部の名称と動作説明



①電源スイッチ (POWER)

このスイッチを押しますと電源が入り、入力切替えのインジケータが点灯し、約3～5秒後にフェーダスイッチが青色に点灯します。もう一度押しますと、電源が切れます。

②入力切替えスイッチ

TAPE A : TAPE A端子に接続したテープデッキの録音・再生をするとき、および3ヘッドテープデッキのモニター録音をするとき。

TAPE B : TAPE B端子に接続したテープデッキの録音・再生をするとき、および3ヘッドテープデッキのモニター録音をするとき。

AUX : AUX端子に接続した機器の音をきくとき。

TUNER : TUNER端子に接続したチューナーで放送をきくとき。

PHONO : PHONO端子に接続したプレーヤーでレコード演奏をきくとき。

注

入力切替えスイッチの全スイッチがOFFの状態となったときは、入力切替えスイッチのすべてのインジケータが点灯して異状を知らせてくれますので、おききになりたいソースの入力切替えスイッチを押してください。押したスイッチのインジケータは点灯のままで、他のインジケータが消灯します。

③プリセットレベルツマミ (PRESET LEVEL)

スピーカーとヘッドホンの音量レベルをプリセットするツマミです。ふつうおききになるときは左から4番目位の目盛に、ツマミの指標をプリセットしておきます。フェーダスイッチが点灯しているときは、通常のボリュームとして使えます。

④フェーダスイッチ (FADER)

プリセットレベルツマミを左から4番目位の目盛に合わせ、電源スイッチをONにしますと数秒後にリレーがONになり、同時に音量がしだいに大きくなります。フェーダスイッチも音量とともに明るくなり、青色に点灯します。音量を「0」にしたいときは、軽くフェーダスイッチを押しますと、音量がしだいに小さくなり、青く光っていたスイッチも、音量に比例してだんだん暗くなっていき、音も光も消えます。もう一度、フェーダスイッチを押しますと、音量がしだいに大きくなり、スイッチも同時に明るくなり、プリセットレベルツマミで設定した音量まで戻ります。

音のでている状態で、音量をかえたいときは、プリセットレベルツマミで調節してください。

注

レコードをかけかえるときや、カートリッジを交換するときまたは電話がかかってきたときなど、一時的に音量を下げたいときは、フェーダスイッチを軽く押してください。プリセットレベルツマミを操作することなく簡単に音量を「0」にすることができます。

⑤ヘッドホンジャック (PHONES)

ステレオヘッドホンできくとき、ヘッドホンのプラグを差込みます。ステレオヘッドホンだけできくときは、スピーカースイッチをOFFの位置にしてください。

⑥スピーカースイッチ (SPEAKERS)

OFF : ヘッドホンだけできくときの位置です。スピーカーからは音がでません。

Σ DRIVE A : Aスピーカー端子に接続したスピーカーできくときの位置です。Σケーブルで接続しますと、Σドライブシステムで音楽を楽しむことができます。

B : Bスピーカー端子に接続したスピーカーできくときの位置です。

A + B : AおよびBスピーカー端子に接続したスピーカーを同時に使用するときの位置です。この場合は、Aスピーカー端子にΣケーブルが接続されていても、Σドライブシステムは動作しません。

⑦音質調節ツマミ、スイッチ(BASS, TREBLE, TURNOVER, TONE)

リスニングルームとスピーカーの音響特性を補正するものです。お部屋の条件等にあわせ、あなたの好みに合うように調節してください。

低音(BASS)、高音(TREBLE)の調節は、トーンスイッチをONの位置に行かないです。ツマミを「0」より右にまわすとBASSでは低音が強まり、TREBLEでは高音が強まります。左にまわすとBASSでは低音が弱まり、TREBLEでは高音が弱まります。

ターンオーバー(TURNOVER)は、低音と高音の増強、減衰が起り始める周波数を切替えるスイッチです。低音は、200Hzと400Hzから、高音は、3kHzと6kHzから切替えられます。いずれかの位置にしますとその周波数から低音、高音の調節ができます。

低音、高音ともトーンスイッチ(TONE)がOFFでは、信号が完全にトーンコントロール回路を通らない回路になり、フラットアンプとして働きますので、フラットな周波数特性の音をきくことができます。

⑧レックアウトスイッチ (REC OUT)

テープデッキに録音やダビングをするときに使用します。

OFF : この位置では、背面のTAPE A, BのREC端子には信号がでませんので接続されているテープデッキのインピーダンスの影響を受けません。

放送受信やレコード演奏時は、この位置にしてください。

PHONO : プレーヤーの出力が直接TAPE A, BのREC端子にでできます。

TUNER : チューナーの出力が直接TAPE A, BのREC端子にでできます。

AUX : AUX端子に接続した機器の出力が直接TAPE A, BのREC端子にでできます。

DUBBING(A▶B) : TAPE A端子に接続したテープデッキAを再生して、TAPE B端子に接続したテープデッキBに録音するとき、この位置にします。

DUBBING(B▶A) : TAPE B端子に接続したテープデッキBを再生して、TAPE A端子に接続したテープデッキAに録音するとき、この位置にします。

⑨ バランス調節つまみ/スイッチ (BALANCE)

スピーカーシステムやステレオヘッドホンの左右の音量調節やお部屋の配置によるバランスを調節するときに使用します。

OFF: この位置では信号がバランス回路を通らないため、バランスの調節ができません。バランス調節を使用しないときは、OFFにしておきますと、バランス回路の影響を受けない音質が得られます。

ON: この位置でバランスを調節します。左側の音が小さいときは、つまみを“0”より左にまわし、右側の音が小さいときは、つまみを“0”より右にまわしてください。

⑩ ラウドネススイッチ (LOUDNESS)

小音量でおききになるときは、聴感上低音が不足しますが、このスイッチをONにしますとこの不足分が補正されます。大音量でおききになるときは、OFFの位置にしてください。

⑪ ストレートDC/サブソニックフィルタースイッチ

STRAIGHT DC: TUNER, AUX, TAPE PLAYの各入力端子からSPEAKERS端子まで、カップリングコンデンサーのまったくない完全な直結アンプとなります。超低域の音を再生したいとき、この位置にします。

SUBSONIC FILTER: この位置では、18Hz以下の低周波数が1オクターブ当り6dBの割合で除去されます。レコード盤のそりなどに起因する超低域の雑音や、レコード針がレコード面に接触するときに発生する可聴範囲外の低域雑音を除去します。スピーカー保護のためにも、常時この位置にしておくことをおすすめします。

⑫ モードスイッチ (MODE)

STEREO: ステレオで再生するときの位置です。

MONO: モノラルで再生するときの位置です。また、スピーカーの位相チェックやステレオバランスのチェックをすることができます。

⑬ フォノ2系統切替えスイッチ (PHONO)

1 (□): PHONO 1端子に接続したプレーヤーで、レコード演奏をきくときの位置です。

2 (ㄣ): PHONO 2端子に接続したプレーヤーで、レコード演奏をきくときの位置です。

⑭ フォノカートリッジ切替えスイッチ (PHONO)

MM (□): プレーヤーのカートリッジがMM(ムービングマグネット)型、または高出力MC(ムービングコイル)型るとき、この位置にします。

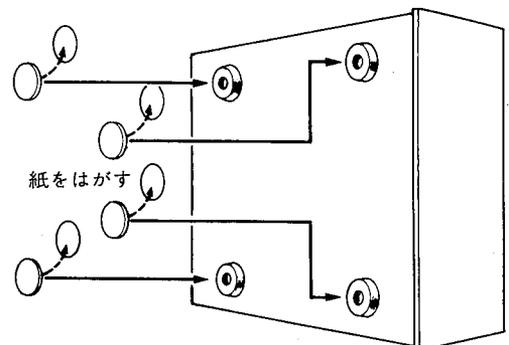
MC (ㄣ): プレーヤーのカートリッジがMC型るとき、この位置にします。

ご注意

本機の電源部(KA-1000-PS)は必ず本体(KA-1000)の左側に設置してください。本体の上に積み重ねたり、右側に設置しますと、ハムが発生することがあります。

セットのすべり防止用ゴムについて

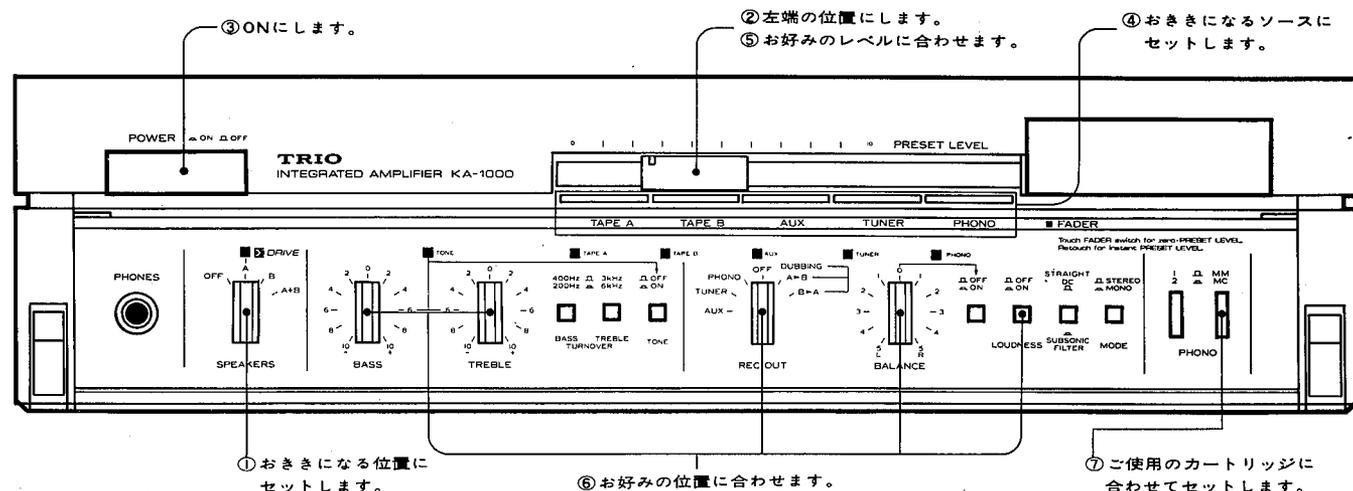
KA-1000のプッシュスイッチを操作したとき、セットがうしろにすべるような場合は、付属している4個のすべり防止用ゴムをご使用ください。図のように紙をはがし、ノリのついていの方をKA-1000の4個の脚にはりつけてください。



操作のしかた

操作のまえに

プリセットレベルつまみや、フロントガラス内部にあるスイッチ類は一度調節すれば、使用頻度が低いものです。これらのスイッチ類は、次の手順であらかじめセットしておいてください。



放送をきくとき

1. 入力切替えスイッチのTUNERを押します。
2. チューナーを操作し、放送を受信します。

レコード演奏をきくとき

1. 一時的に音量を“0”にするために、フェーダースイッチを押します。
2. 入力切替えスイッチのPHONOを押します。
3. プレーヤーを操作し、レコードを再生します。
4. フェーダースイッチを押します。

注

カートリッジの交換や、レコード針をレコード面に置くときは、スピーカー保護のためにも、フェーダースイッチで一時的に音量を“0”にすることをおすすめします。

AUX端子を使った再生

1. 入力切替えスイッチのAUXを押します。
2. AUX端子に接続した機器を操作します。

テープデッキを使うとき

本機には、2系統のテープ端子があります(TAPE A, TAPE B)。プリアンプつきのテープデッキ2台を接続して、録音・再生ができます。2台のテープデッキに同時に録音することも、テープからテープへのダビングもできます。

再生のしかた

1. 背面のTAPE A, TAPE B端子に接続されたテープデッキに合わせ入力切替えスイッチのTAPE AかTAPE Bを押します。
2. テープデッキを操作し、録音済みのテープを再生します。

1台のテープデッキに録音するとき

1. テープデッキをTAPE AかTAPE B端子に接続します。
2. レックアウトスイッチをPHONO, TUNER, AUXのいずれか録音しようとするソースに合わせます。
3. 録音しようとする機器を操作し、テープデッキを録音状態にします。
4. 録音レベルの調節は、テープデッキの録音レベルつまみで行ないます。この場合、本機のコントロールスイッチ類は録音する音とは無関係です。

2台のテープデッキに録音するとき

1. 2台のテープデッキをTAPE A, TAPE B端子にそれぞれ接続します。
2. レックアウトスイッチをPHONO, TUNER, AUXのいずれか録音しようとするソースに合わせます。
3. 録音しようとする機器を操作し、2台のテープデッキを録音状態にします。
4. 録音レベルの調節は、テープデッキの録音レベルつまみで行ないます。この場合、本機のコントロールスイッチ類は録音する音とは無関係です。

録音状態のチェック (モニター録音)

録音用テープデッキが3ヘッド方式(録音, 再生, 消去の各ヘッドが独立しているもの)の場合、本機の入力切替えスイッチのTAPE A, またはTAPE Bを押すことにより録音状態のチェック(モニター録音)ができます。スピーカーからテープに録音されたばかりの音が再生され、録音の状態が確認できます。

注

モニター録音の場合は、録音用と再生用の接続が必要です。また、2ヘッド方式のテープデッキはモニター録音ができません。

テープダビングのしかた

2台のテープデッキを使って、録音済テープから別のテープへ録音するテープダビングは、レックアウトスイッチを切替えることによりAからB, BからAへの相互ダビングができます。

テープデッキAからテープデッキBへのダビング

1. レックアウトスイッチをA▶Bの位置にします。
2. テープデッキAを再生、テープデッキBを録音状態にします。
3. 録音レベルの調節は、テープデッキ側で行なってください。

テープデッキBからテープデッキAへのダビング

1. レックアウトスイッチをB▶Aの位置にします。
2. テープデッキBを再生、テープデッキAを録音状態にします。
3. 録音レベルの調節は、テープデッキ側で行なってください。

注

録音側に3ヘッド方式のテープデッキを使用する場合は、そのテープデッキに対応する入力切替えスイッチのTAPE A, またはTAPE Bを押しますと、ダビング状態のモニターができます。そのさい、TAPE AとBのスイッチを、同時に押さないようご注意ください。

ダビングしながら他のソースの音をきくとき

1. レックアウトスイッチはA▶Bまたは、B▶Aの位置にあり、ダビング状態です。
2. おききになりたい機器を操作します。
3. おききになりたいソースに合わせて、入力切替えスイッチ (PHONO, TUNER, AUX) のいずれかを押します。

レックアウトスイッチの使いかた

このスイッチは録音ソースの切替えスイッチで、背面パネルのTAPE A, TAPE BのREC端子に出る信号を切替えます。スイッチがOFFの位置では、本機とテープデッキのTAPE REC端子の接続が切離された状態となり、テープデッキのインピーダンスに影響されない信号が直接スピーカーから再生されます。したがって、録音しないときは、OFFの位置でご使用ください。

また、PHONO, TUNER, AUXの位置では、入力切替えスイッチに関係なく、TAPE A, BのREC端子が直接それぞれの入力 (PHONO, TUNER, AUX) 端子に接続されるため、次のような使いかたが可能です。

レコード演奏をききながらFM放送を録音する場合

1. 入力切替えスイッチのPHONOを押します。
2. 接続したプレーヤーを操作します。
3. レックアウトスイッチをTUNERにして、FM放送を受信します。
4. 接続したテープデッキを録音状態にして、FM放送を録音します。録音レベルの調節は、テープデッキの録音レベルツマミで行なってください。
5. レコード演奏からFM放送に切替えておききになりたい場合は、入力切替えスイッチのTUNERを押してください。FM放送の録音はそのまま継続しています。

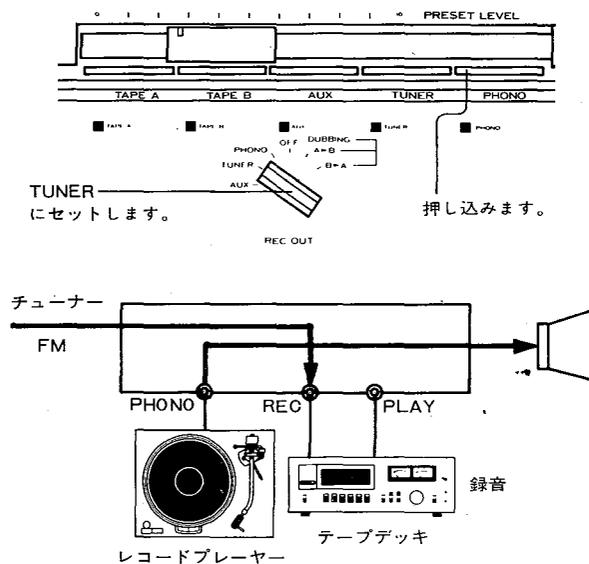


図4 レコードをききながら放送を録音するとき

FM放送をききながらレコード演奏を録音する場合

1. 入力切替えスイッチのTUNERを押します。
2. チューナーを操作します。
3. レックアウトスイッチをPHONOにして、プレーヤーを操作します。
4. 接続したテープデッキを録音状態にして、レコード演奏を録音します。録音レベルの調節は、テープデッキの録音レベルツマミで行なってください。
5. FM放送からレコード演奏に切替えておききになりたい場合は、入力切替えスイッチのPHONOを押してください。レコード演奏の録音はそのまま継続しています。

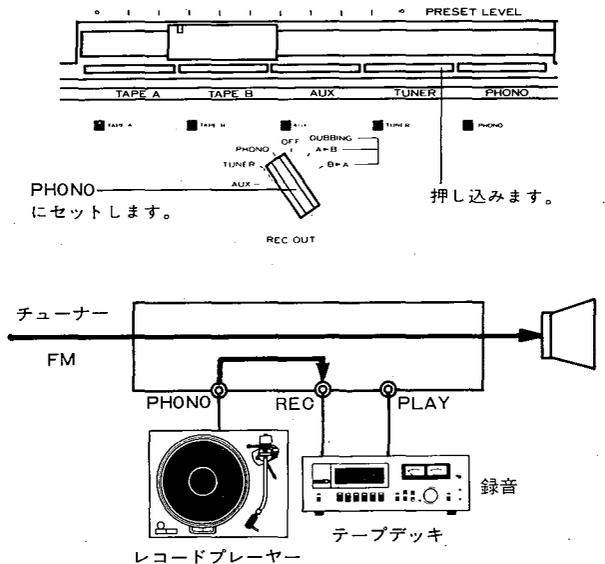
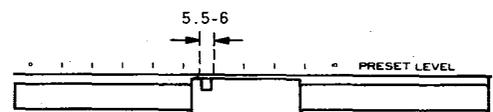


図5 放送をききながらレコードを録音するとき

パワーアンプとしてのご使用法

本機は入力感度1Vのパワーアンプとしてもご利用いただけます。

1. 入力切替えスイッチをAUXにセットします。
2. トーンコントロールやフィルターを調節して、周波数特性を平坦にします。
3. プリセットレベルツマミを5.5から6の位置にセットしておきます。



4. 電源スイッチは、他の機器を接続してからONにします。

故障と思われる症状ですが……

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に症状に合わせ、一度チェックしてみてください。

AM, FM, レコードに起きる	原因	処置
電源スイッチを入れてもランプが点灯せず音も出ない。	電源部との差込み不完全。 ヒューズが切れている。 リモートケーブルがはずれている。	差込みプラグを完全にコンセントに入れる。 購入店、または最寄りのトリオ営業所へ連絡してください。 リモートケーブルを接続する。
左右とも音が出ない。	スピーカースイッチがOFFになっている。 スピーカークードがはずれている。 プリセットレベルが左側端にある。 入力切替えスイッチが全部OFFの位置になっている。	スピーカースイッチをセットする。 アンプとスピーカークードの端子の接続を点検する。 適当な音量まで、プリセットレベルを右に移動する。 入力切替えスイッチをセットする。
片側だけ音がでない。	スピーカークードがはずれている。 バランス調節つまみが片側いっぱいにしぼってある。	スピーカークードとの接続を点検する。 バランス調節つまみを調節する。
レコードをきくときだけ起る	原因	処置
ラジオ放送とレコード演奏のときに音量差がある。	チューナーの出力（電波の強さ）とレコードの出力が異なるため。	プリセットレベルつまみを最適な音量に調節する。
左右とも音が出ない。または片側の音が出ない。	プレーヤーの出力コードがはずれている。	プレーヤーの出力コードを完全にPHONO端子に差込む。
ブーンという大きな音がでる。	プレーヤーの出力コードの差込みが不完全。 プレーヤーのアース線が接続されていない。	プレーヤーの出力コードを完全にPHONO端子に差込む。 プレーヤーのアース線を背面のGND端子に接続する。
音楽とともにブーンというハム音が入る。	プレーヤーの出力コードと電源コードが接近してハムをひろう。	出力コードと電源コードを離す。 プレーヤーの電源差込みを逆にしてみる。
音を大きくしたり低音を出すとボワーンという大きな音がする。	ハウリングとよばれるもので、スピーカークードの振動がプレーヤーに伝わるために起る。	プレーヤーとスピーカークードの間を離す。 スピーカークードの下には、ブロックか木の足、プレーヤーの下には厚いクッションかインシュレーターを敷く。

定 格

これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い、予告なく変更になることがあります。

〔オーディオ部総合特性〕

TUNER, TAPE → SPEAKERS (一部 PHONO → SPEAKERS)

定格出力

両チャンネル動作, 8 Ω, 20Hz~20kHz ……100W + 100W

全高調波ひずみ率 (AUX → SPEAKERS, 8 Ω)

定格出力時, 20Hz~20kHz …… 0.005%

1/2 定格出力時, 20Hz~20kHz …… 0.005%

周波数特性

オーバーオール (AUX → SPEAKERS) DC~400kHz …… -3dB

サブソニックフィルタ ON時 18Hz~400kHz …… -3dB

PHONO "RIAA" 偏差 (PHONO → REC OUT) 20Hz~20kHz ± 0.2dB

SN比 (IHF-A), 定格出力時

PHONO (MM) 2.5mV …… 87dB

PHONO (MC) …… 67dB

TUNER, AUX, TAPE PLAY …… 105dB

トーンコントロール

BASS 200Hz …… 50Hz, ±7.5dB

400Hz …… 100Hz, ±7.5dB

TREBLE 3kHz …… 10kHz, ±7.5dB

6kHz …… 20kHz, ±7.5dB

フィルター

SUBSONIC -3dB …… 18Hz, 6dB/oct

ラウドネスコントロール (VOLUME: -30dB)

100Hz …… +10dB

ダンピング ファクター

100Hz (アンプ単体の終端およびΣケーブルの終端で) …… 600

過渡特性

ライズタイム …… 0.9μs

スルーレイト …… ±120V/μs

入力感度および入力インピーダンス (定格出力時)

PHONO (MM) …… 2.5mV, 47kΩ

PHONO (MC) …… 0.2mV, 100Ω

TUNER, AUX, TAPE PLAY …… 150mV, 47kΩ

フォノ最大許容入力 (PHONO → TAPE REC)

MM: 1kHz, 0.003% THD …… 270mV

MC: 1kHz, 0.003% THD …… 15mV

出力レベルおよび出力インピーダンス

TAPE REC (Pin) …… 150mV, 330Ω

〔電源部・その他〕

電源電圧・電源周波数 …… AC100V, 50/60Hz

定格消費電力 (電気用品取締法に基づく表示) …… 320W

電源コンセント …… 電源スイッチ連動2個100W

電源スイッチ非連動2個400W

寸法 (本体) …… 幅440×高さ110×奥行375(mm)

(電源ユニット) …… 幅140×高さ110×奥行358(mm)

重量 …… 正味14.4kg

梱包込み17.8kg



■アフターサービスのお問合せは、購入店または最寄りの当社サービスセンター、営業所をご利用ください。その他商品に関するお問合せは、お客様相談室をご利用ください。 電話 (03) 486-5515

■トリオ株式会社

本 社 東京都渋谷区渋谷2の17の5 シオノギ渋谷ビル 1F

電話 (03) 486-5511

© 1982 · II PRINTED IN JAPAN

B50-3244-00(T)